

# 2040 PROJECT STEP2

甲府盆地を  
世界一美しく魅力的な盆地へ

2040プロジェクト・ステップ2

山梨建築設計4団体 2040プロジェクト実行委員会  
山梨県建築設計協会 山梨県建築士事務所協会  
山梨県建築士会 日本建築学会山梨支所  
協賛：仲田育成事業財団



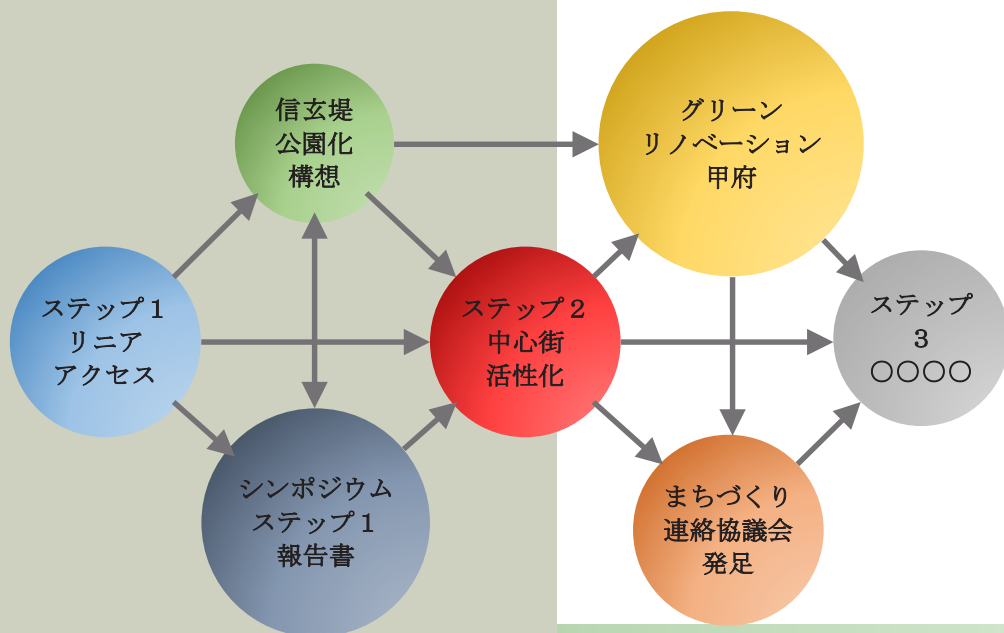


私達 山梨県建築設計4団体2040プロジェクトチームは、2013年プロジェクトステップ1で地域の活性化に向けて「甲府盆地を世界一美しい盆地へ、山梨県を世界で一番住みやすい県へ」というキャッチフレーズを掲げて活動を始めました。

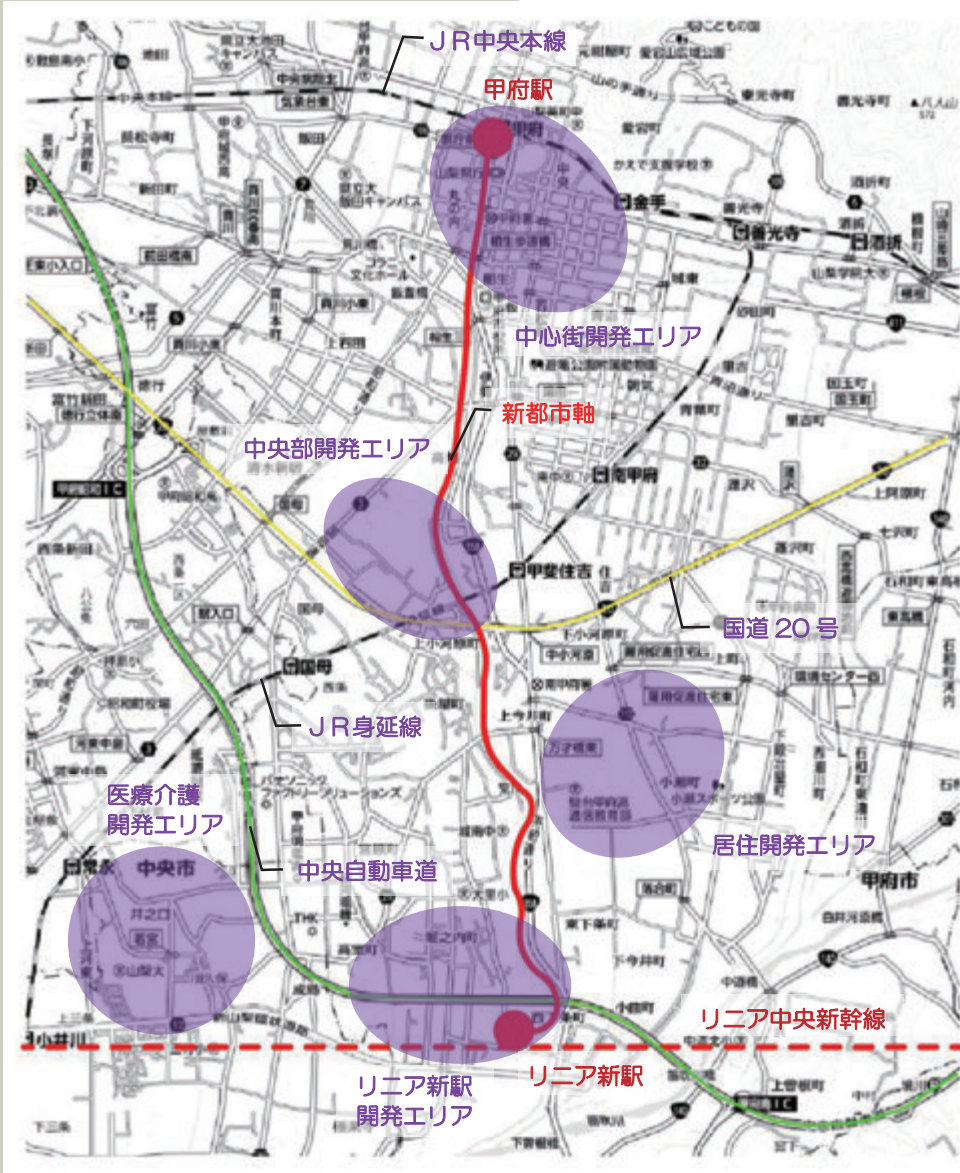
ステップ1ではプロジェクトの進め方や連携のあり方と共に、リニア駅からのアクセスの方法やルートを提案致しました。

今回のステップ2ではステップ1のフォローと共に、昨年11月にメンバー9名で実施したスペインマドリッド視察研修の成果も含め、山梨のグランドデザインを視野に置きながら、その骨格の中心になる甲府市中心街の活性化に取り組みます。

リニア中央新幹線、中部横断自動車道、富士山世界文化遺産登録、東京オリンピック開催等で、山梨、甲府は変わらざるを得ません。地域の特性を生かし歴史的にも経済的にも核となるべき、甲府市中心街をお城も含めて本当の意味で「世界一美しい盆地」にふさわしいエリアにするよう提案いたします。



# なぜ今甲府市中心街活性化なのか



リニア駅から甲府駅までの開発概念図

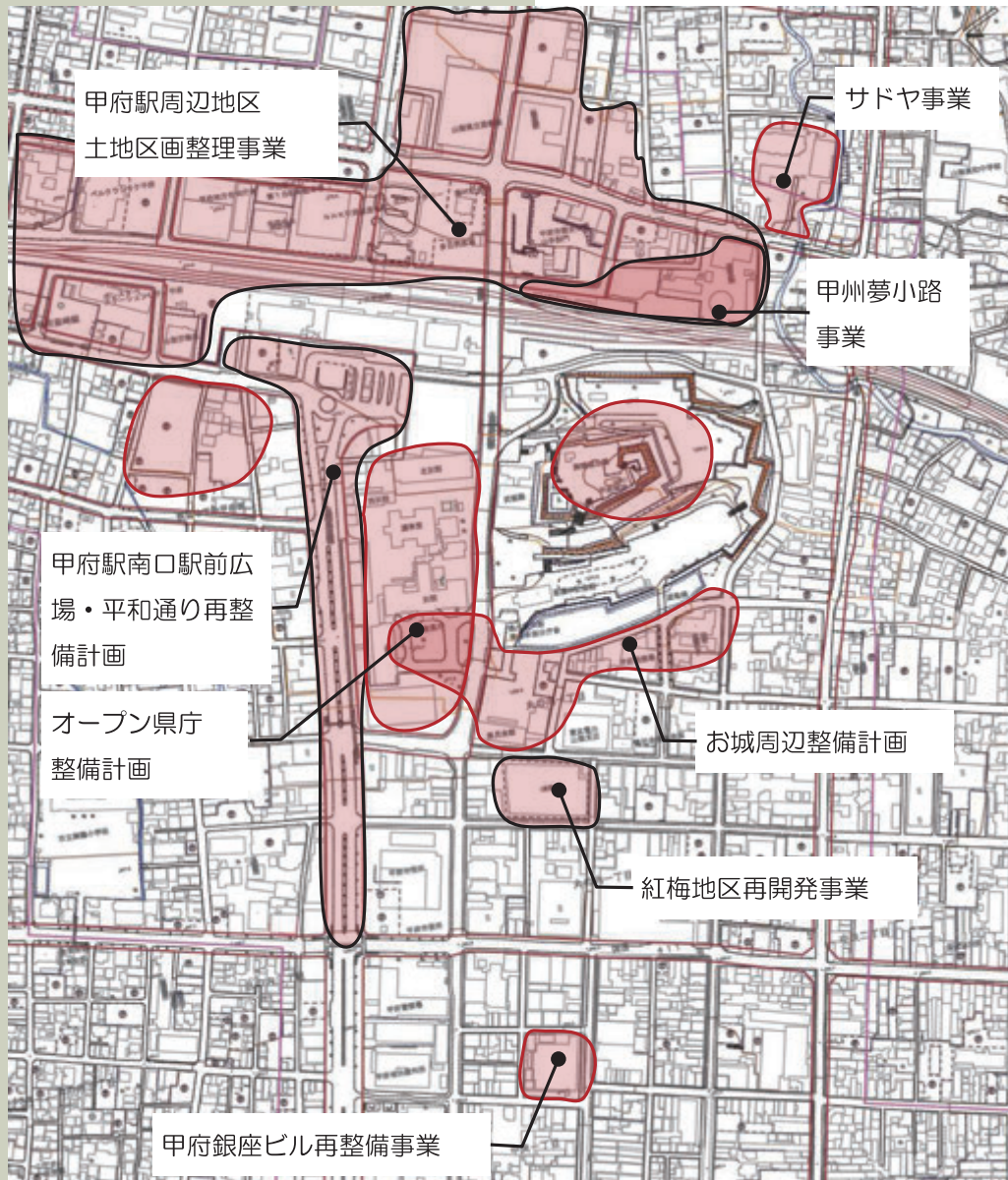
2040プロジェクトステップ2では甲府市中心街活性化に取り組みます。

リニア新駅周辺はこれから確実に良くなりますが、甲府駅とリニア駅間約8km。この距離は東京駅から新宿駅までにあたります。たとえ人口が増えても、より良い形で開発することは難しく、同じような開発では単なるスプロール化が進むだけです。現在の甲府市中心街が性格を明確にした活性化により魅力的なエリアにすることが出来れば、リニア新駅周辺と差別化や住み分けが可能になります。リニア中央新幹線や中部横断自動車道、富士山世界文化遺産登録等のファクターをより前向きに考えると、リニア周辺エリアの開発はそれなりに進みますが、甲府市中心街はこのまま放置すればもっと酷いことになりかねません。しかも既存の施設や権利の調整を含む中心市街地の活性化には時間が掛かります。リニア開通を見据えてこれは今から始めなければなりません。

甲府の中心街には、甲府駅南口周辺の開発計画、県民会館、東別館跡地を含むお城周辺開発計画、甲府銀座ビル建替計画、ココリテナント誘致等色々な動きもありますが、我々はこれらを含む甲府市中心街を独自の視点で考えたいと思っています。

歴史もあり、社会的なインフラも進んでいる甲府市中心街が魅力的なエリアにならない限り、世界一美しく住み良い地域には成りません。

# 甲府市中心街活性化「世界一美しい市街地へ」



中心街開発全体図

甲府市中心街で現在進行中の整備活性化事業及び計画が幾つもあります。

- 1) 甲府駅北口再開発、区画整備事業
- 2) 甲府駅南口駅前広場、平和通りの再整備計画
- 3) お城周辺整備計画
- 4) 甲府駅南口商店街再開発計画
- 5) 甲府市商業中心街活性化計画

私達2040プロジェクトではこの内お城周辺整備計画と甲府市商業中心街活性化計画に取り組みます。

このエリアに二つの交流人口、地域（甲府盆地周辺）の住民の買い廻り流入人口と、県外及び海外からの観光流入人口の増加を目指す事が大切です。その為に何が必要なのかを私達は考えます。

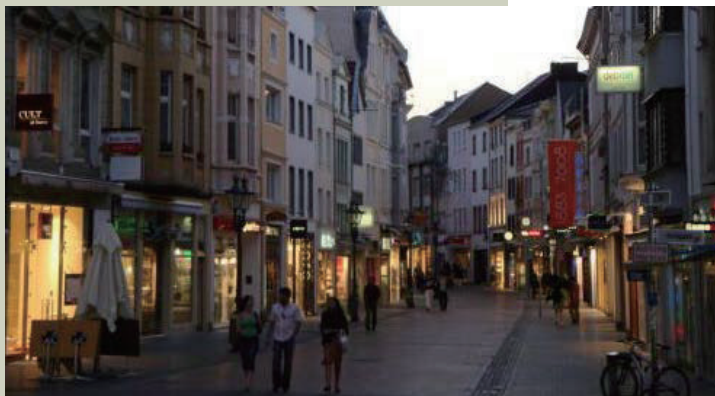
この二つのエリアが連動して上手く動いた時に「世界一美しい市街地」は現実的な形になってきます。このエリアのコンセプトが明確になれば、その他のエリアに対して、単なるデザイン上の統一ではなく方向性の一致した「世界一美しい市街地」が形成可能になると考えています。

## 中心街活性化プロジェクトの方向性



ヨーロッパ

おちついた  
旧市街地の  
街並み



ヨーロッパ

旧市街地の  
商店街



ヨーロッパ

街並みに  
調和した  
オープン  
カフェ

甲府市中心街のイメージコンセプトを考えると郊外に展開する大型ショッピングモールと同じ考えでは対抗できません。

今までのまちづくりでは、いかに若者を集めるか、若者が集まる町が活気ある町だと言われて来て、その為のイベントやアンテナショップ等色々な試みがされてきましたが、甲府市の中心街の活性化を考えると誰がターゲットなのかを絞り込まなければなりません。県内で高校を卒業する18歳から20代の若者が、一番人数が少なく可処分所得も少ない、この層をターゲットにしても中心街は良くならない、可処分所得や可処分時間の多い大人をターゲットにすべきです。大人が買い物や食事、エンターテイメントなどを楽しめる落ち着いたヨーロッパの旧市街の様な町を目指し、その為にお城エリアの歴史的景観を楽しむ甲斐遊路の整備や中心街の商業施設を緑で満たすことにより「世界一美しい市街地」を目指す（グリーンリノベーション甲府）を提案します。

長い時間を掛けて形成された市街地のハードを再開発の手法で根こそぎ変える事は今の甲府の中心街には無理です。空き地や駐車場も含め建物の壁面緑化やグリーンツールの普及で温暖化対策の一翼をも担い、歩いて楽しい大人の町を提案します。

## グリーンリノベーション甲府



壁面緑化事例

まちづくりはその地域特性や歴史的背景を考慮しなければならないことはもちろんですが独創性も大切になります。日本人ほど四季の移り変わりや自然に敏感な国民はいないと言われています。また湿潤な気候で植物がよく茂る日本の環境は世界に冠たるものです。これらの条件を考慮して私たちは「グリーンリノベーション甲府」を提案します。

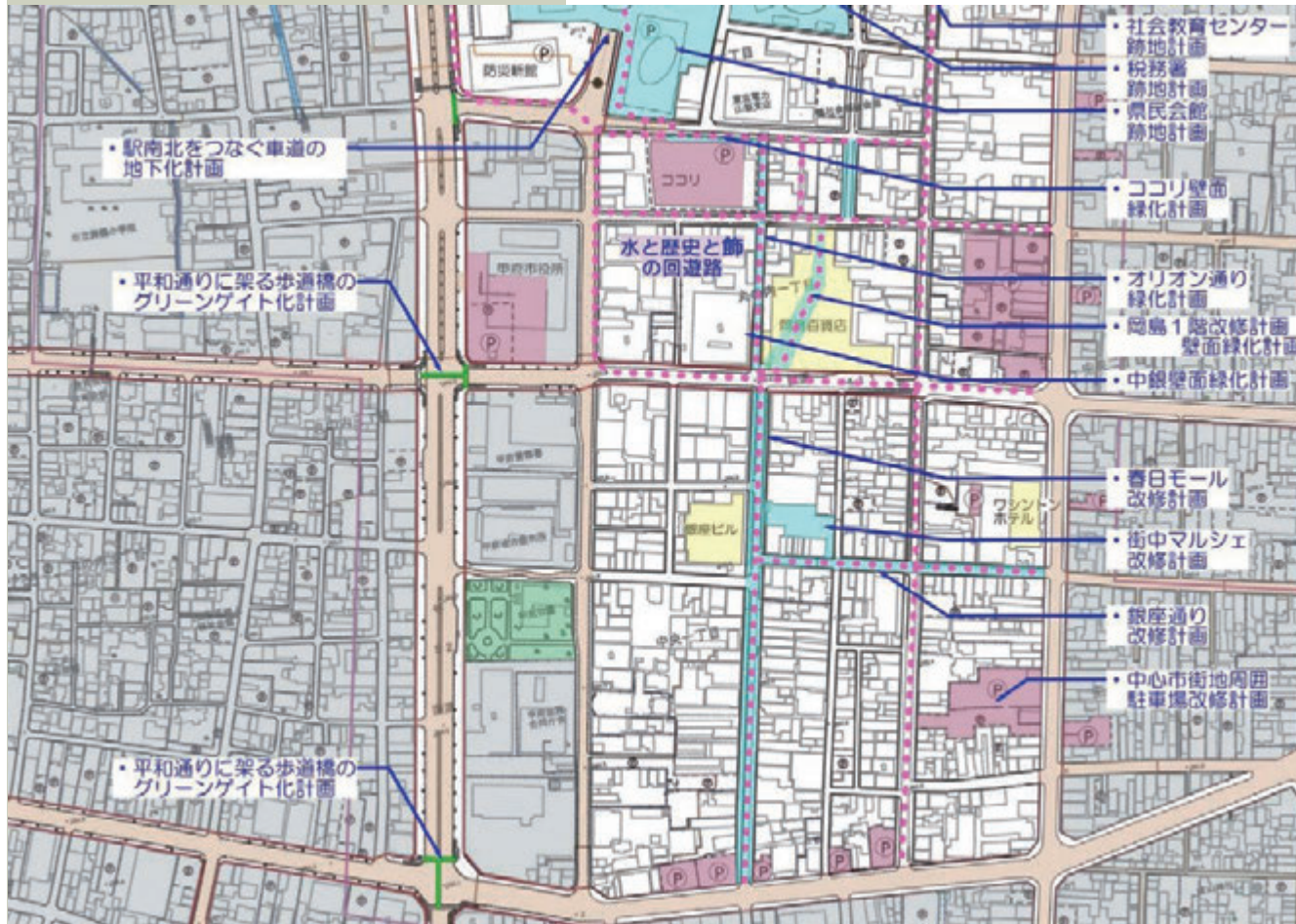
この計画は甲府市中心街やお城周辺を色々なタイプの壁面緑化を含むグリーンツールで整備することにより、特色ある落ち着いた大人の楽しめる中心街を創設し活性化を計ろうというものです。

スペインマドリッドでフランスの造園デザイナーパトリックブランの垂直庭園「カイシャフォーラム」はマドリッドの観光スポットになっていますし、東京でもファッションブルなどブランドビルなどが壁面緑化を行っています。通りや駐車場を含むエリアで緑化に取り組んでいる事例は世界にもありません。我々はこの計画を具体化する為に、コスト、設置方法、メンテナンスなども考慮した計画を提案します。

計画は、ポット、ボックス、自立パネル、壁面パネル、ゲート、アーケード等中心街の各々の場所に合った提案をします。

キャッチフレーズは「甲府市中心街を世界一美しい商店街に」です。

## エリア1 商業中心街



エリア1マップ

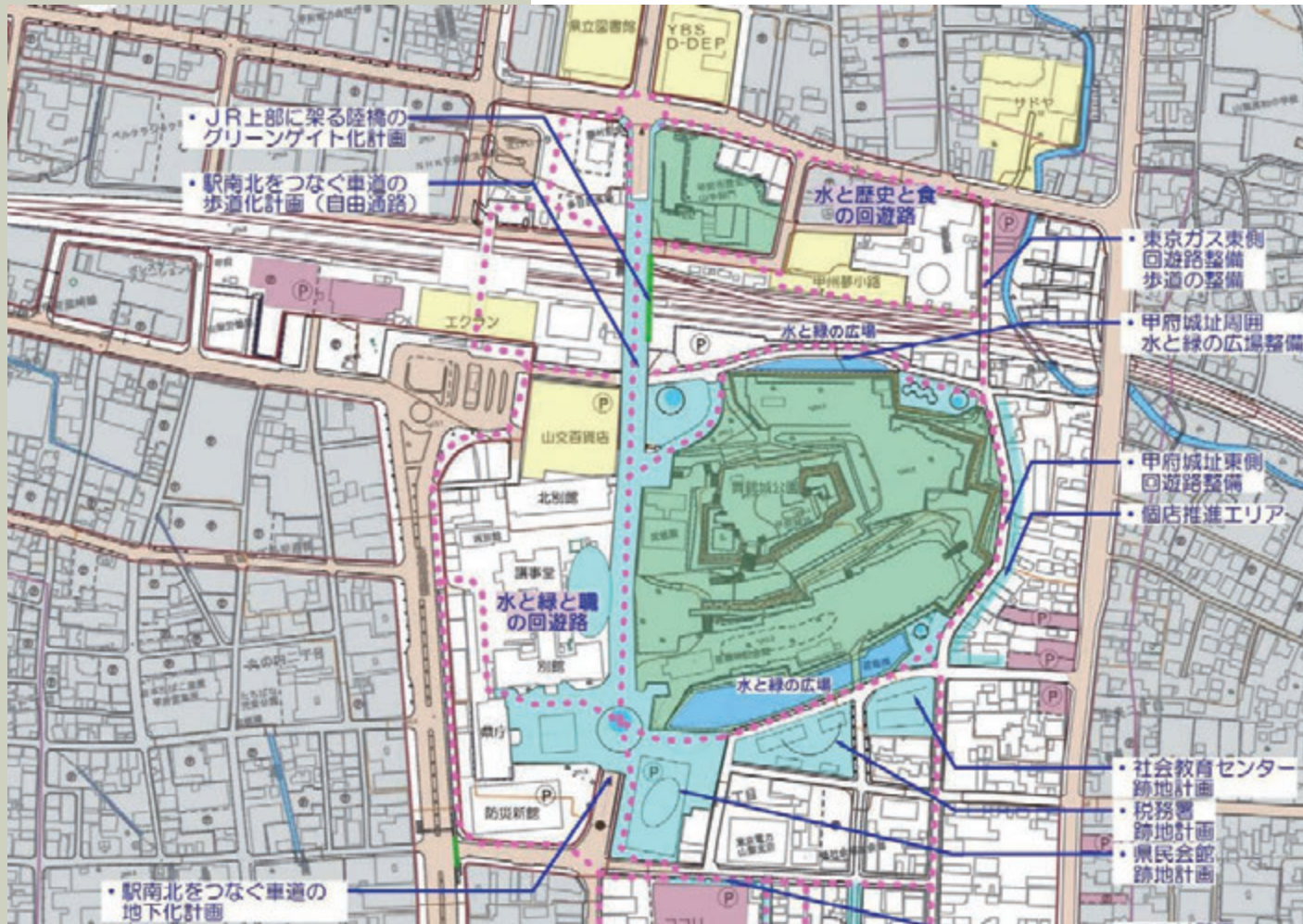
今回私たちが提案するのは、オリオン通り、春日モール、銀座通りを中心とした、甲府市商業中心街です。このエリアをグリーンリノベーションとしてグリーンツールで環境整備し、それに連動した、街中ぶどう棚下仮設マルシェ「よっちゃんバル」、映画館の復活やライブスポットの充実によるエンターテインメントエリアの確立、岡島デパートの一階のインスタアモール、セミパブリック化や各種イベントなどで中心街を活性化しようとするものです。

朝日町のハナミズキが身近な例のように、樹木や花は予想以上の力を発揮いたします。中心街も通りによって樹種や形状の違うグリーンツールで整備することにより、緑豊かで大人が楽しめる「世界一美しい商店街」をめざします。

グリーンリノベーションの具体例は、ココリ周辺はパネルと壁面緑化、オリオン通り、弁天通りはポット、春日モールはゲート、銀座通りアーケードはペンダント、点在する駐車場はぶどう棚緑化、中銀本店や岡島デパートにも象徴的な緑化等その建物、通りにあったグリーンツールを提案します。



## エリア2 甲府城周辺



エリア2 マップ

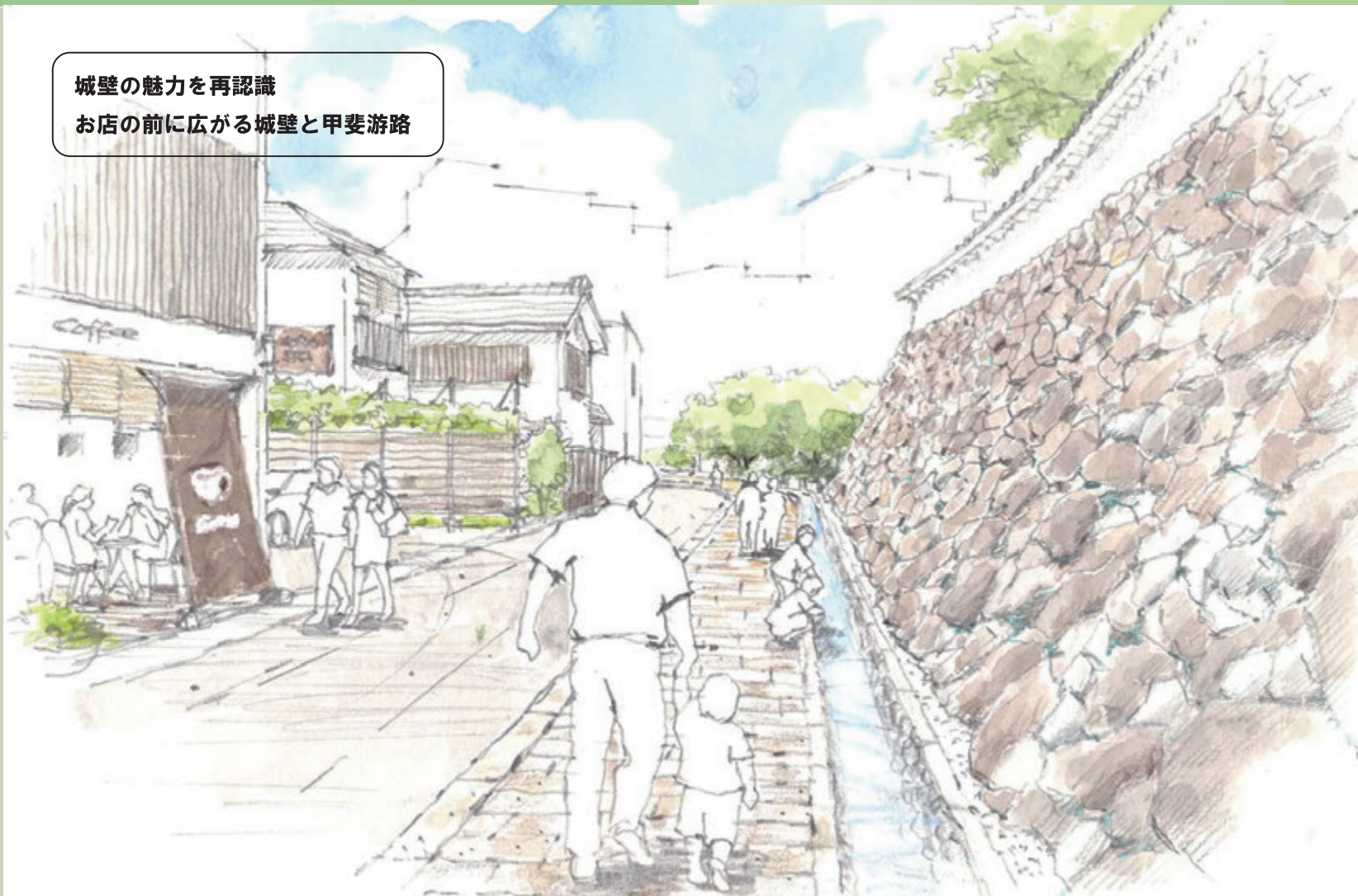
甲府城は、県民に愛される武田信玄とは別に興味深い歴史があります。現在甲府駅のすぐ南東側に位置していて、その歴史的意义及び景観的な価値を再度県民に知って頂き、甲府のシンボルとして活用して行くことが大切であると思います。

その為には、もっとお城の城壁周辺を景観的に整備して日常的に親しめる歩いて回れる甲斐游路の整備が必要です。

整備が終わった甲府北口周辺の各施設と、これから整備を行わなければならない県民会館跡地、甲府税務署跡地等、甲府城南側及び商業中心街とを歩いて廻ることで、より良く繋がらなければお城を含む甲府の中心街は良くなりません。

## 甲斐遊路 1

城壁の魅力を再認識  
お店の前に広がる城壁と甲斐遊路



甲府城の石垣は日本でも有数の石垣であることから、その景観的な魅力を感じられるように、遊歩道（甲斐遊路）の設置、電線の地中埋設化などを行い、安全且つ歩いて楽しい空間として整備します。

特にお城東側は、現在の道路を拡幅することなく遊歩道化し、既存の建物を再利用して店舗とする事業者には特典を与えるなどして、活気の感じられる魅力的な通りに変身させていきます。

## 甲斐遊路 2



甲斐遊路の途中には、ポケットパークや親水空間を設けることで、甲府城をもっと身近に感じてもらえるような憩いの場として提案します。城壁との関わりや、お濠の歴史などに触れられる場所、子供の遊び場、地域住民の憩いの場として活用します。子供や大人が城壁をキッカケに、甲府の歴史を知り、今まで以上に親しみと誇りが持てるようになることを望みます。その為には、今までよりも周囲を歩き易く、途中で休憩も出来る回遊性のある歩道の整備が必要だと考えます。

民間企業も甲斐遊路に沿った境界壁面などを整備して甲斐遊路の魅力をUP

甲斐遊路に沿った親水空間で城壁の魅力再構築



## ぶどう棚パーキング



甲府市中心街には、近年 駐車場が増えています。駐車場は、車を停めて中心街を散策するには便利です。しかし、駐車場に面した建物の側面は正面ファサードとは違って美しいとは言い難いものです。山梨の風景の特徴の一つに“ぶどう棚がある風景”があります。ぶどう棚の特徴は、頭の上にぶどうが実っていることです。ぶどう棚の下には空間が広がり、実際には棚の下に車を止めたり、机や椅子を持ち込んでにぎわいを作ったりしています。ぶどう棚をモチーフとして駐車場を緑化してはどうでしょうか、頭上に広がるぶどう棚によって日差しを避けることができます。これらの試みが定着すれば、“街中ぶどう”や“街中ワイン”として売り出しても面白いと思います。

また、棚の下は駐車としてだけでなくカフェなどの人の集まる場としても最適です。場所を覆うぶどう棚が夏の強い日差しを和らげてくれる。場所によってぶどうの種類を変えれば季節の移ろいを教えてくれる場所となります。ぶどう棚を通じて山梨らしい風景を提案したいと考えます。



## ココリ



甲府のランドマークを目指し作られたココリはステンレスパンチングを外壁に使った近代的なデザインの建物ですが、もっとインパクトを与え中心街のシンボルになるような建物にしたいと考えます。

現在のステンレスパンチングの外壁を季節で変化する壁面緑化で覆うことにより、四季折々の顔を見せるマドリードのカイシャフォーラムのような建物を目指します。

また、壁面を緑化することにより温熱環境への効果も期待されます。

大規模な壁面緑化を行うことによって甲府のランドマークとなり、賑わいができるのではないのでしょうか？

南北の通りに面した公開空地には、オブジェクトとしても使える緑化パネルを設置し、街全体の賑わいを演出し、ショップフロントを設けることによって、その場所を歩いているだけでも楽しめる一種のレジャーランドのような施設にすることにより、地元の間人はもちろんのこと観光客も楽しめるスポットにすることを提案します。



## オリオン通り・オリオンイースト



オリオン通りには、既存のアーケードを活用したペンダントタイプ（吊植栽）の緑化を提案します。

花や植物の変化で季節を感じ、七夕やクリスマスにはイベント用のデコレーションを施すことによって、甲府にしかない独特な空間を演出できます。訪れるたびにオリオン通りの印象を変える“グリーンペンダント”を、新たな甲府の商店街へといざなう入り口として、ダイナミックに緑化します。

オリオン通りから路地に入ったオリオンイーストには、フラワーポットを用いた緑化を提案します。幅の狭い小道の壁面に色とりどりのフラワーポットを配置し、路地特有の少し暗いイメージから、華やかながら大人の雰囲気漂う小道へと変化させます。



## 山梨中央銀行本店



中心商店街の一角をしめる中銀本店が、業務上3時にシャッターが閉まってしまうことで、オリオン通りから春日モールに繋がる人の流れに気分的なブレーキを掛けてしまいます。

シャッターの前面を壁面緑化し、パーゴラを設けて木陰をつくり、誰でも気軽に利用できる空間にすることにより賑わいを演出します。

地域に根付く金融機関にとっては、一考に価するものだと考えます。



## 岡島百貨店



創業以来、市民の憧れであり、愛され続けてきた岡島百貨店。多くの県民が一度は訪れたことがあるであろう岡島百貨店には、縦目地の入った特徴的な外観を生かした緑化を提案いたします。縦に長い緑のストライプが、私たちが見慣れていた甲府の風景を一変させるアクセントとなるはずです。

また、1F をインスタモール化、オープンカフェの設置、フリースペース設置等の改修を行うことで、どこか閉鎖的であった 1F スペースが、往来する人々の憩いの場として生まれ変わり、これまで以上に愛される百貨店へと変化すると考えます。





## 春日モール



中心街の中でも、歩いて楽しいメインストリートの春日モールは現在のアーケードを撤去してデザイン的にもインパクトあるグリーンアーケードを設置することを提案いたします。グリーンウェーブと名付けたこのアーケードが春日モールに設置されれば、CO2、地球温暖化に対しても効果の大きい環境装置として大きな話題になることは確実です。我々はこのグリーンウェーブに対して設置コストやメンテナンス方法なども具体的に詰めていくつもりです。



## クロスカルチャーセンター



中心街の衰退を考えた時、商業施設のスプロール化だけでなく、イベントの多様化や文化的発信施設の郊外拡散も原因の一つに考えられます。スクランブル交差点に面したこの敷地には、県民会館の名が示すように県民会館ホールがあり、地下には2つの貸展示スペースがあり甲府山梨の文化の発信場所でした。文化ホールや美術館、文学館と違って立地を活かし中心街に買い物に来た時に立ち寄れるイベントホール、展覧会やイベントにきたついでに買い物をする、食事をする、そんな多目的ホールがこの場所にはぜひ必要です。

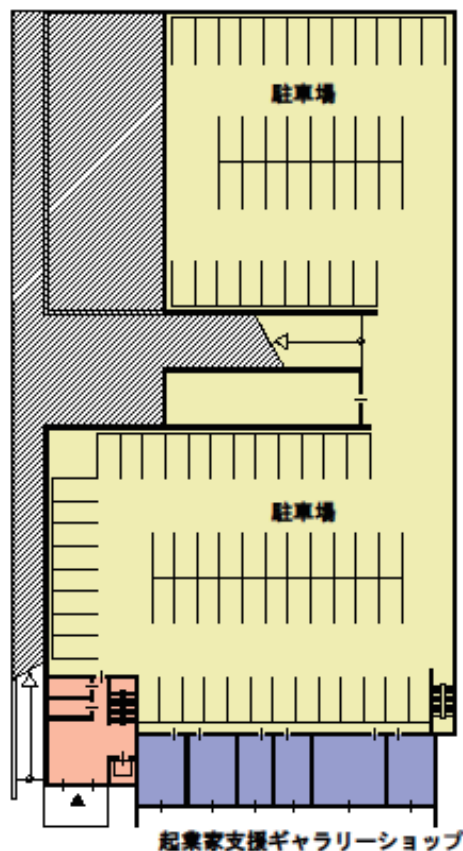
県庁のオープン化も見越すとさしあたりの公用車駐車場、またクロスカルチャーセンターへの利用者駐車場も必要です。したがって駐車場の機能は保持したうえで、この立地の良い場所に町のランドマークに景観的にも機能的にもなる施設が必要だと思います。

1階ココリ側には、中心商店街に繋がる起点として若手起業家、デザイナー達の起業家支援アンテナショップ。一店舗のスペースは小さくても良いので、たとえば原則三年間程度の期限付きで県行政が家賃補助を行い、若手起業家やデザイナーを育てる、そこで育った人々が中心街にお店を開く、そんなビジョンを持った計画が必要です。2階にはまちづくりのためのNPOや任意団体が集まれる会議室、3階にはお城を望む景観も生かしたルーフガーデン、オープンカフェを併設した多目的イベントホールを提案します。100名から150名程度のイベント会場の確保が中心街では大変です。

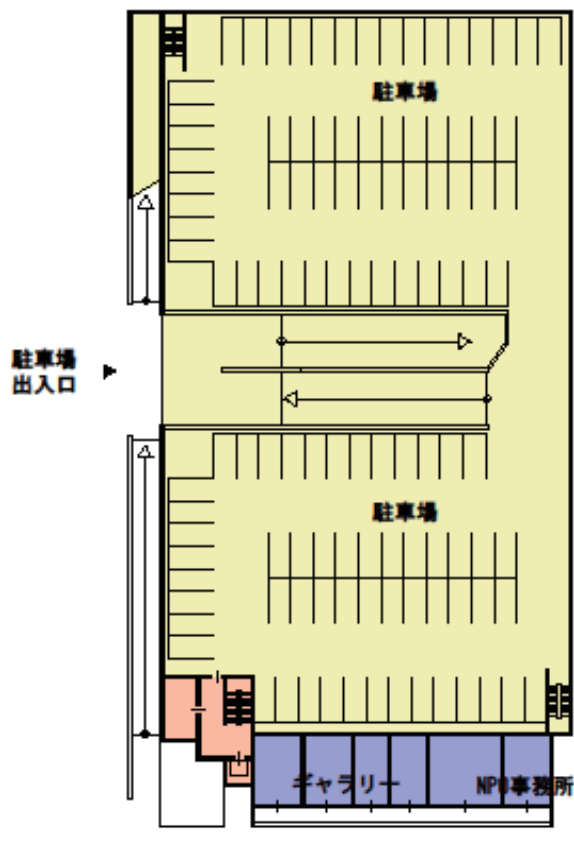
また、個展・グループ展・ミニコンサートという既存の施設と違った施設がここには必要です。

# クロスカルチャーセンター

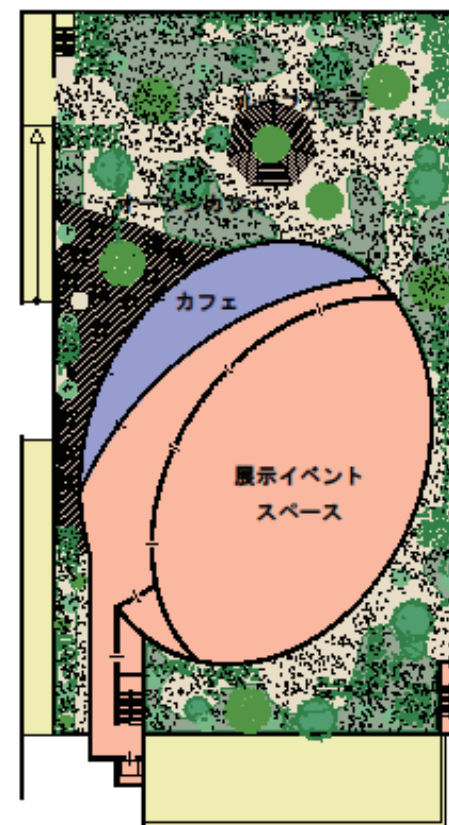
駐車場は1フロアー程度を計画し、イベントスペースやショップの駐車場として利用したいと考えています。2階は小さな個展やイベントが開けるスペース、3階の屋外はお城の見えるオープンカフェ。市内で一番お城の風景を楽しむことができます。



1階平面図



2階平面図



3階平面図

## クロスカルチャーセンター



県庁東別館が解体されたことによりスクランブル交差点から甲府城がきれいに見えるようになりました。この景観は大切にしたいと思っています。クロスカルチャーセンターの外観はできるだけ低く抑え、スクランブル交差点側は3階でもお城側は1階になるように、道路勾配を利用して計画します。デザインはお城のデザインを引き継ぐのではなく、日本の城郭が持つシンプルに美しい精神を引き継いだものにしたいと思います。

低層部は城の石垣で構成し、その上部は漆喰壁でお城との景観の連続性を確保します。その上部は駐車場の外部壁面に、中心街のテーマでもある壁面緑化を施すことによりこの施設のランドマークとしての位置付けを明確にします。

イベントホール、モダンでシャープなデザインとして屋上庭園からお城をベストポジションで臨める立地を活かし、利用者や観光客から親しまれる施設にしたいと考えています。

## 山梨フロントスタイル

お城の正面にあたる、税務署跡地や甲府市社会教育センターの土地の利用計画はお城、中心街にとって大きな意味を持ちます。

市内中心部にお城があるという魅力をもっと地域住民、観光客に発信できるような場所になって、また訪れたいくなるようにするためにも、お城と中心街を結ぶこのエリアは重要な役割をはたします。私達はこのエリアをお城正面から既存商店街に繋げる回遊路の整備も含めて、山梨のプレミアムブランドショップ、すなわち『山梨フロントスタイル』として提案します。

地域の魅力を発信できるお店が厳選した、ここでしか買えない物、食べられない物、飲めないお酒等、落ち着いた雰囲気の中、ショッピングや食事ができる、しかもお城の正面という魅力ある立地を生かし、特別な贈り物、特別な日の食事、そんなプレミアムな大人のエリアとしてここを計画しました。



お店は低層の小さな空間の集合体とし、雨の日も傘を差さずに買い物ができ、甲府城の魅力を感じられるような空間とします。デザイン要素としては、クロスカルチャーセンターと同じく石垣、漆喰、壁面緑化がテーマで、店舗の形はシンプルでモダンなものを目指しますが、イタリア中部山岳都市にも通じ、甲府城の景観とも違和感なく溶け込むものを目指します。

## よっちゃんバル

駐車場を葡萄棚パーキングにすることもグリーンリノベーションの提案の一つですが、駐車場だけ増えていくだけでは活性化は図れません。春日モールから弁天通りにつながる駐車場などは立地も良いので、今まで無かったスタイルの商業施設として、象徴的に再生させたいものです。現在の経済状況や社会情勢の変化のスピード等を考えると、大型投資や長期間の償還計画はなかなか立てられません。そこで、私達は仮設コンテナ等を利用したまちなかマルシェを提案します。初期投資も少なく時代の変化にも対応しやすいことが特徴です。飲食店、ファストフード店、バー等を中心とした「よっちゃんバル」。ぶどう棚や壁面緑化によって整備された気持ちの良いカフェでランチや気軽なディナーをワインと一緒に楽しむ、そんな場所が甲府の中心街あったら素敵だと考えています。



## よっちゃバル



1階平面図

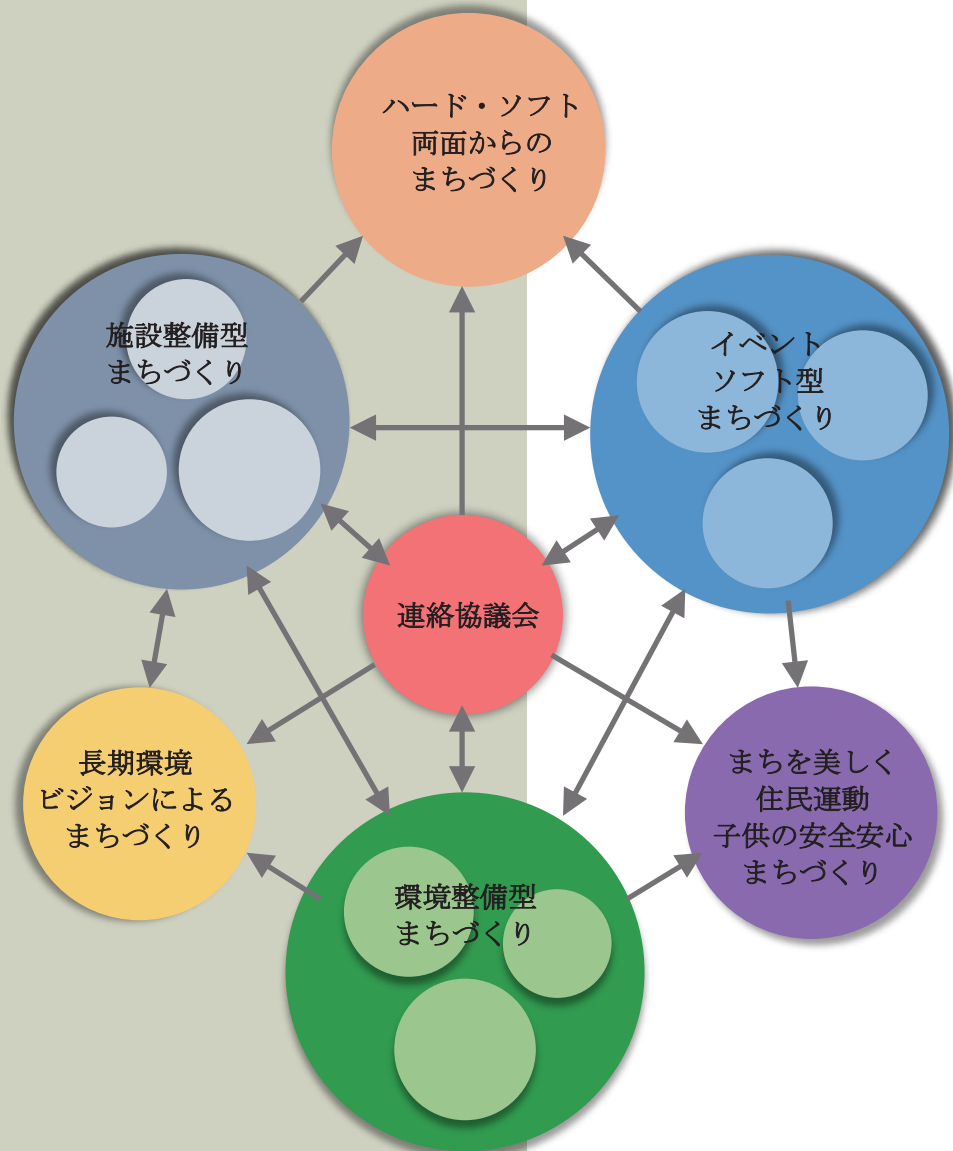


2階平面図

土地の所有者からすれば中心街でも駐車料金の低下等で採算効率の落ちている駐車場より、安定した地代の入るまちなかマルシェの方が土地利用効率がよいはず。また、新しい土地利用計画が持ち上がった時にもスピーディーに対応することが出来ます。

ぶどう棚緑化なども取り入れて環境整備をおこなえば、街中の若者も大人も楽しめる面白いスポットになるでしょう。事業主体を誰が行うかといった課題はありますが、コンテナ店舗そのものは場所が変わっても設置できる、業態や集客状況によって拡張も行え、再利用が可能というメリットも有ります。

先週とは違う店舗が出店、先月とは違うデザインなどといった絶えず変わっていく施設にすることで、継続的に賑わうスポットになるはず。



## 継続するまちづくりの為に「連携」

甲府市のまちづくりに関係する団体は数多く、これほど多くのまちづくりの会や団体が活動していることは、かつてないとも言われています。

しかし、各団体やグループ間の繋がりは綿密ではなく、同じようなことを幾つかのグループで行っていたり、そんな活動をしてきたのなら、ぜひ一緒にやりたかった、と言うように、連携がうまく取れていないのが実情です。

色々な立場や団体やグループの方向性の違いもありますが、甲府、山梨を少しでも良くしようとする気持ちがあれば、情報交換から始めても地域にとってプラスになると思い連絡協議会の立ち上げを企画しました。

まちづくりもアプローチが違い、施設整備、ハードを中心に行うものからソフト、イベント中心のものまで色々な取り組み方がありますが、それら幾つかの動きが連動し、官民一体となった活動が出来るようになればと思っていますが、まずは年数回集まって情報交換から始めたいと思っています。今年10月から、第一回のまちづくり連絡協議会を始めたいと思っています。



# Memo

A series of horizontal dashed lines for writing.

## 2040 プロジェクト・ステップ 2

---

平成 26年10月

編集・発行 山梨建築設計 4 団体 2040 プロジェクト実行委員会  
山梨県建築設計協会 山梨県建築士事務所協会  
山梨県建築士会 日本建築学会山梨支所

問い合わせ先 一般社団法人山梨県建築設計協会  
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 1-14-19  
TEL 055-232-5770 FAX 055-232-5959  
E-mail yarc@peach.ocn.ne.jp  
URL <http://www.yksekkei.org/>